



# 小田小だより

平成27年12月号

〒236-0052 横浜市金沢区富岡西1丁目69番1号 TEL 045(775)3011

<http://www-local.edu.city.yokohama.jp/sch/es/koda/>

横浜市立小田小学校

## 「和顔愛語」

～あるバスの運転手さんの優しさに思いを寄せて～

学校長 木村 昭雄

12月になり小田小学校の校庭の木々も葉を落とし始めました。風も肌を刺すような冷たさを感じさせます。そんな季節の中で、正門を入れて昇降口に向かう小道沿いに有る一本の桜が、今を盛りに花を咲かせています。12月に桜の花？確かに桜の花！その桜の木の幹には「ジュウガツザクラ（十月桜）」の表示があります。春に咲く桜より小ぶりですが、それはそれは可憐で美しく、観る者の心をほっと和ませます。個人面談等でご来校の折りに観ていただければ幸いです。

寒さに身を縮めがちな季節に、心がほんのり温かくなる出来事をご紹介します。前任校でのことです。12月のある日、出張先から勤務校までバスに乗って戻るとき、とあるバス停でかなり長いこと停車していました。どうしてかなあと思っているとき、足の不自由な小学生が乗車してきたのです。足には金属製の装具がつけられ、コツコツという音を立てながら、ゆっくりと乗車して空席に座りました。

「皆様、たいへんお待ちいたしました。」という車内放送が入り、バスは静かに動き始めました。

しばらくして、バスがとあるバス停に着くと、足の不自由な小学生は乗客の方に向かって、

「ありがとうございます。」

と言って頭を下げて降りていきました。運転手さんは

「気をつけて帰りなさいね。」

と笑顔で手を振りました。また、何人かの乗客も

「気をつけなさいよ。」

と優しく声を掛けていました。

その子どもが降りても、バスは発車せずに少し停留所に止まっていた。夕刻であり薄暗いので、バスのライトでその子が角を曲がって見えなくなるまで小道を照らしているようでした。



「和顔愛語（わがんあいご）」という言葉があります。仏教の世界で言われる美しい言葉の一つです。あるテレビ番組で、有名な女優さんが、「私の座右の銘は、『和顔愛語』です。」と話されていました。漢字から何となく意味は分かるのですが、早速調べてみました。

「和顔愛語」とは、「おだやかで温かな顔つきや言葉つき、振る舞い」とのことでした。先月、ある学級で「人を温かい気持ちにする言葉は何だと思う？」と問いかけている道徳の授業を見ました。一番に「ありがとう」という答えが返ってきました。それから「大丈夫？」という声掛けなど……。私たち大人が子どもたちに「ありがとう、あなたのおかげでとても助かったよ。」という感謝の気持ちや、「大丈夫？あなたのことをいつも見守っているよ。」と愛でる気持ちを伝えていくことが、子どもたちの自立を促し、自尊心を高めることに結びつくのではないかと思います。

「人間というのは、人に受け入れられてから、人を受け入れられるようになるのです。」とは、佐々木正美著「ことばの玉手箱」に記されている一節です。

私たち大人から「和顔愛語」を大切に今年一年を締めくくりたいと思います。

今年も残すところ一ヶ月のみとなりました。保護者の皆様、地域の皆様、本年も小田小学校の教育活動にご理解とご協力をくださいまして、誠に有り難うございました。これからも子どもたちに関心を寄せ、おだやかな笑顔と温かい言葉がけをどうぞよろしくお願い申し上げます。

この子 才あれと 思うより  
この子 学成れと 思うより  
この子 世に出よ と 思うより  
健やかなれと 思う日の祈りは深し  
父なればこそ母なればこそ